

「食物アレルギーとアトピー性皮膚炎」

医学博士 長谷川 時生 先生

今回はアトピー性皮膚炎の悪化因子のひとつである「汗」に対する対策などを話題にしました。

さらに食物アレルギーが関係している可能性があることもふれました。

原因となる食品の摂取を避けることで皮膚炎の症状の改善が得られる可能性があるわけです。

食物アレルギーとは

食物アレルギーとは、ある食品のタンパク質が体内に入り、そのタンパク質と抗体との免疫の過剰反応がおこることによって様々な症状があらわれる状態といえます。

身体の中で免疫にかかわる抗体には、IgE、IgG、IgA等5種類の免疫グロブリンというタンパク質が知られています。

食物アレルギーは左記の二つに分けられ



あきたすてらクリニック
院長・医学博士
長谷川 時生 先生

ます。

- ① IgE抗体が関係する即時型アレルギー
- ② IgG抗体が関係する遅延型アレルギー

即時型アレルギーは原因となる食品を食べると数分から数時間内でじんま疹をおこしたり、顔のむくみや呼吸困難をおこしたり、アナフィラキシーショックという死に至る危険な状態になる可能性もあります。たいてい1、2種類の食品が原因で、本人も自覚し記憶していることがほとんどです。

食物アレルギーとして診断するには、原因と思われる食品に対するIgE抗体を証明する必要があります。遅延型アレルギーは最近指摘されるようになりまし。原因となる食品を食べてから数時間から2、3日たつて多様な症状をおこします。好物で、毎日

たくさん量を食べている食品が原因となることが多いといわれています。症状が慢性化しているため、本人は食品が原因であることに気づかず、原因となる食品の特定が困難でした。

症状は、難治性湿疹、じんま疹、偏頭痛、慢性疲労、うつ、便秘、下痢等実にさまざまです。

遅延型アレルギーの診断・治療

遅延型アレルギー診断のためにも、原因と思われる食品に対するIgG抗体を証明しなければなりません。数年前より国内でこのIgG抗体検査を受けられる医療機関が増えてきました。一度の血液検査で100種類弱の食品を調べることができ。検査料金は保険が適用されないため自費料金で3万円から5万円位のお金です。

検査を受け、IgG抗体価の高い食品が判明した際は、3〜6ヶ月の間その食品の量を減らす、あるいは除去することで症状の改善が得られるか様子を見るとよいでしょう。症状の改善が見ら

れば、その食品が遅延型アレルギーの原因である可能性が高いといえます。

遅延型アレルギーとアトピー性皮膚炎の関係

アトピー性皮膚炎や慢性湿疹で悩まれている方は、IgG抗体が検出されることが多く、食物による遅延型アレルギーが皮膚炎の症状悪化に深く関係している可能性があります。遅延型アレルギー検査を受けることが症状改善への一歩になるかも知れません。

(参考)アンプロシア株式会社
USバイオテック研究所
日本正規代理店
<http://www.ambrosia-kk.com/>

	関与抗体	発症までの時間	症 状
即時型アレルギー	IgE抗体	数分～数時間	じんま疹、顔のむくみ、咳、呼吸困難、腹痛、下痢、シヨック等
遅延型アレルギー	IgG抗体	数時間～数日	湿疹、じんま疹、偏頭痛、うつ、慢性疲労、便秘、下痢等

形成外科・皮ふ科・アレルギー科
あきたすてらクリニック

(ラ・ポア・ラクテ1F) 駐車場あり
〒010-0851
秋田県秋田市手形字西谷地1-2
TEL:018-874-7411
FAX:018-874-7412
URL:<http://www.akita-stella.jp>
facebookで情報発信しています

●通常診療 ●手術 ★予約外来

曜日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
14:00~18:00	●	★	●	●	●	/

*休診日/土曜日 午後・日曜日・祝日

